

社員を専任教授に派遣

安川電機 九工大大学院に開講へ

安川電機(北九州市)は、九州工業大学が同市若松区に新設する大学院生命体工学研究科に「ヒューマンメカトロニクス」と題する講座を来年四月から開設する。企業が研究費を寄付する。企業が研究費を寄付する。企業が研究費を寄付する。

「人間と調和のとれた機器を研究する」との願いを込めた造語で、「会社としても必要な基礎研究だ」と(金谷利憲・同社技術部長)という。

社員の客員教授一人と助教一人はいずれも博士号をもち、「機械制御学」「福祉機器学」「マイクロ化学工学」を受け持つ。教授陣の人数と一部研究機器は同社が負担し、学生が博士課程を終えるまでの五年間は異動させない方針だ。

学生には新キャンパスでの講義や研究だけでなく、同社内で実践的な研究もさせる。学校側も「テーマの設定は自由で、製品づくりや会社の収益に直結するよきな研究も認める」と柔軟だ。すでに受講希望者が十数人に達しているという。

「ヒューマンメカトロニクス」と題する講座は、同社が研究費を寄付する。企業が研究費を寄付する。企業が研究費を寄付する。

同社は産業用ロボット製造の大手。ロボットは工場自動化や省力化に寄与するが、逆に人がロボットに使われるという非人間性も